だんないの道

創刊号

2011年2月 1 日発行
発行者：NPO法人CILだんない
代表者：美濃部裕道
連絡先：〒529－0423
滋賀県長浜市木之本町
千田681-4
E-mail：dannai@ae.auone-net.jp

NPO法人（ほうじん）として認証（にんしょう）されました!

2009年8月、滋賀県長浜市木之本町に自立生活センター（Center for Inclusive Living : CIL）を設立しようという趣旨に賛同した有志4人がCIL設立のために設立準備会を立ち上げました。この準備会において検討を重ねてまいり、2010年4月から8月にかけてNPO法人設立に向けて本格的に作業する一方で、事業内容の策定に取り組んでまいりました。

こうした準備作業の結果、10名の方々に賛同をいただき、2010年8月にCILだんないのNPO法人設立総会を開催することができました。設立総会では、9つすべての議案が全会一致で可決され、2010年9月に滋賀県に申請致しました。そして2か月の縦覧期間を経て、2010年12月 3 日にCILだんないがNPO法人として滋賀県から認証されましたことを報告申し上げます。

これからは、定款に定めました11の事業を理事、職員が一丸となって障害者の地域での生活を共に応援しあえるセンターになるよう邁進していく所存であります。まだまだ、翼を広げたばかりの当団体ですが、ご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

設立総会（せつりつそうかい）のようす

ごあいさつ

昨年１２月に登記を終えて、ようやく「NPO法人CILだんない」が誕生しました。昨年８月に設立総会を開催してから半年が経とうとしているにもかかわらず、「だんないの道」の発行が今になってしまい、ご心配をおかけしました。しかし、皆様にはいつも温かい目で見守っていただいており、本当に感謝します。そして、こうして無事に設立号が完成しました。うれしい限りです。これから本格的に始動していきますが、引き続いて応援していただきますようお願い申し上げます。以下、当面の重点的に行う活動を述べたいと思います。

だんないには、障害者が難なく地域で自立生活できるようにしたいという願いがあります。その願いを実現させるためには、社会モデルというキーワードを地域に根付かせることが必要不可欠だと考えます。その上で、ヘルパー派遣事業所を増やしたり、バリアフリーを整えたりすることが必要だと思います。もし社会モデルに基づく取り組みでなければ、場合によっては障害者に対する押し付けや抑圧でしかなくなります。ヘルパー派遣を例に出せば、残存機能の維持や日常生活の保護を目的としたサービスであれば、ただ障害者に対して抑圧しているだけです。だんないの目指すサービスは、ヘルパー利用を権利として捉え、利用者の意志を最大限に尊重し、提供することです。つまり、かゆいところに手が届くヘルパーを育成することです。このような環境を整え、サービスを展開できれば、徐々に利用者にとっての自分らしい生活が実現していくはずです。そのステップとして、まずは私たち、だんないのメンバー自身の自立生活を確立していきたいと考えます。その次に、他の利用者の自立を保障していくことを目指します。当面は、そのようなヘルパー派遣事業を念頭に取り組んでいきたいです。

そして２つ目は、地域に根付いている「障害は異常だ」というイメージを転換させていきたいと思っています。だんないがスタートしてから湖北圏域の小中学校、高校の数校でお話させていただく機会を持ちました。中でも印象に残っているのは、米原市の東草野小学校で副代表の市川とともに子どもたちの前に立てたことです。２人での取り組みは初めてでしたが、子どもたちは皆一生懸命に聞いてくれました。徐々に子どもたちにあった障害者に対するイメージが変化していくのを感じました。私は、このように若い人たちに社会モデルを訴えかけることが地域全体の障害観を変えていく有効な方法だと思います。大人や高齢者には、ある程度の考え方は確立しており、社会モデルの受け入れは難しいものがあります。しかし、若い人たちには新しいものを受け入れようとする吸収力はあります。次世代を担う役割もあります。若い人たちに訴えかけることは非常に効果的と言えます。それでもかなりの時間はかかるでしょう。それを覚悟の上で、粘り強く取り組んでいきます。

以上２点を当面の重点的に行う活動として捉え、精力的に取り組んでいく所存です。今後、さらなる出会いを求めながら、だんないの活動の輪も広げていきたいです。そのためには皆様のご理解・ご協力がなくてはなりません。今後とも、ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

代表

美濃部裕道

２０１０年１２月３日に「NPO 法人 CIL だんない」を設立することができました。

事の始まりは友人である代表の美濃部と将来に何かをしようと話していたことで、当時は具体的な構想もなく、自分にできることがあるのか疑問を感じていました。それから程なくして、当事者仲間に出会い、社会モデルの考え方を知り、社会からの抑圧によって障害のある人が生き辛く感じている部分があることを自覚しました。これが「だんない」の目的である、誰もが自分らしく生きられる社会を実現したいという思いに繋がっていったのです。こうして「だんない」が設立できたことを嬉しく思っています。

重度障害者でも望めば地域で自立生活ができる環境を保障したいと考えています。現状では重度障害がある場合、不本意ながらも介助の面で家族に依存し負担をかけてしまう、生活が成り立たないため入院や施設入所を余儀なくされてしまうということがあると思います。こうした状況のなか、将来を憂いている障害者は多いと思うのです。どんなに重い障害があっても自分らしく生きるためには、ヘルパーや在宅医療などの社会サービスを充実させ、地域での自立生活を保障する必要があります。障害者の生活を支える役割を担う介助者の育成も重要な課題です。障害当事者本位のサービス提供により、利用者は基本的な生活に不安を感じることなく、自分らしく生きられます。サービス提供者も仕事に対するやりがいや誇りへと繋がると思うのです。このような相互作用により、誰もが住みたい地域で共に生きていける社会を目指したいと思います。

私が社会モデルの考え方を知り、自分が抑圧されていたことに気付いた時に非常に気が楽になり、人生を前向きに考えられるようになりました。だんないの活動のなかで安心して自立生活を実践し、自信を持って生きていける人々が増えることを願っています。

だんないの活動は地域にとって必要だと思いますが、自分自身が自分らしく生きていくためでもあります。当事者だからこそ使命感を持ち、諦めずに取り組んでいきたいと思っています。今後とも皆様のご支援・ご協力のほど、どうぞよろしくお願い致します。

副代表

市川正太

NPO 法人 CIL だんないの事務局長を務めさせていただく、頼尊恒信と申します。だんない計画1年半が経った NPO 法人が立ち上がり、今このようにして、事務局長任に就かせていただくことになりましたことに、感慨深く思っております。

私と社会モデルとの出会いは、今から 12 年前になります。当時であった社会モデルは、CIL だんないが目指そうとしているイギリス型の社会モデルではなく、1970 年代の日本において、わき起こり議論させていた社会モデルの考え方でした。当時の私は、日本的社会モデルの考え方や、自立生活の考え方に馴染むことができず、色々と思索を巡らしたことを、懐かしく思います。

この 12 年間の歩みは、決して、平坦なものではありませんでした。しかし、干支が一回りした今、CIL だんない事務局長としての一歩を歩み出そうとしている私が存在します。この一回りする間で、最も大きく CIL 生活に傾斜していこうとした出会いは、なんといっても、代表の美濃部との出会いでしょう。美濃部と膝を交えて学びあえた 2 年間の京都での学生生活は、多くの示唆に富むものがあり、それが今の生活の基軸と成っています。そして、その後もインターネット電話を用いて勉強会を続けて来られたことは、自立生活の道を選び取る大きなエネルギーとなりました。

その出会いが、代表の同級生である副代表の市川との出会いや、理事の横山との出会いを化学反応的に導いてくれたと思います。そして、その CIL 生活という化学反応は、その後、留まることを知

らず、私にイギリス型社会モデルとの出会い、そして自立生活センターという組織との出会いを与えてくれたのです。言い換えるなら、この化学反応は御縁そのものです。

自立生活センターの事務局長は、自立生活プログラムやピア・カウンセリングなどの主要業務のリーダーとして表舞台に立つと言うよりも、どちらかといえば、事務所内の業務が多い職であると理解しています。時には、財政面で苦言を言わねばならない立場に職務上、立たなければいけないこともあるかもしれません。でも、社会モデルとの出会いから起算して 12 年間、CIL 生活に出会い続けている私であることは間違いありません。今では、CIL 生活こそが、障害者も健常者も、すべての人々があらゆる抑圧から解放されるための大道であることを確信しております。

まだまだ未熟な私ではありますが、代表、副代表と力を合わせて、NPO 法人 CIL だんないの実務に当たらせていただきたく思っています。皆様のご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

事務局長

頼尊恒信

「だんない」の本格的な活動が始まりました。今回、この原稿を書くにあたって、どういう内容にしようかとすごく悩みましたが、難しい言葉を並べるのではなく、自分の思いをそのまま書くことが一番自分らしいのではないかと思ったので、その方向で書いていきます。

「だんない」について考えた時に一番強く思うことは、人との繋がりの大切さです。代表である美濃部と事務局長である頼尊とは大学時代からの付き合いですが、出会ってすぐの頃はだんないを設立するなんてことは想像できませんでしたが、思い返せばその頃から障害を持つ学生同士が自由にコミュニケーションを取れる場所があり、共に笑ったり悲しんだりしていました。私は、だんないも多くの人と交流できる場所でなくてはならないと思います。障害者同士、または地域の人々と関わりを持っていく中で、多くの人に愛されるような CIL になることが何より大切だと思います。もちろん、だんないの大きな目的は社会を医学モデルから社会モデルに変革していくことです。それにはまず、「誰に対してもオープン」な環境を作っていくことが大事だと思いますし、「だんない」だからそれは絶対にできると思います。

医学モデルの日本の社会で、社会モデルを広めることは非常に難しいことです。しかし、だんないの設立に関わったメンバーは心から「日本を変えたい」と思っています。そしてメンバー全員がこれまで生きてきた中で多くのことを経験し、あらゆる所で医学モデルの抑圧を受けてきました。私自身もそうだったように、常に障害を背負って、毎日健常者になることを目指し必死で生きている障害者が世の中にはたくさんいます。そういう人達を抑圧から解放するためには、苦しみを理解し「あなたはあなたで良いのだ」とすべてを包み込んでくれる仲間の存在が欠かせません。確かに、「だんない」がやろうとしていることはとてつもなく大きなことです。しかし、逆に言えば、目指すことは「一人一人が自分の意志で好きなように生きていける社会」とも言えるでしょう。だんないは先頭に立ってそのような社会を実現するために行動すると同時に、一人一人の生き方を後ろから支えていく存在だと思います。まずは滋賀県から仲間達と歩んでいきたいと思います。私もこれからのだんないの活動を楽しみにしています。

理事

横山卓馬

CILだんない構想図（こうそうず）

目標

湖北・湖東地域特有の人間関係の深さ、ゆったりした時間の流れを取り入れた「だんない型社会モデル」の実現

目指す地域社会像

①重度障害者の自立が実現できる地域社会
②医学モデルから脱却し、社会モデルへの変革に取り組む地域社会
③当事者同士のネットワークが築きやすい地域社会

重点目標と具体的方策

目指す環境

- 自立への意欲が湧いてくる環境
- 自分らしく生きられる環境
- 余暇が充実した環境

障害者のエンパワメント

○ピア・カウンセリングによって当事者の自信を取り戻す。
○自立生活プログラムや自立体験の実施によって、当事者の権利意識獲得を図る。

医学モデルからの脱却

○地域の人々に「障害観変革活動」を行い、障害観の社会モデル化を図る。
○当事者の家族に対し、障害理解を進める活動を実施する。

グループ組織化の保障

○当事者自らによるグループ創設の相談を充実させ、新たな余暇活動の場を整える。
○当事者ネットワークの拡大を図る。

自立する実践ツールの提供

○ヘルパー事業所の展開によって、当事者視点のサービスを提供する。
○ヘルパー育成によって、サービス向上を図る。

社会モデルの発信源

○通信発送や広報活動などの運動によって、「だんない型社会モデル」を県内・全国・世界に向けて発信する。
○障害観の北高南低化を図る。

余暇活動の充実化

○交流会や旅行を企画し、余暇活動の充実を図る。
○事業所を解放し、地域とのつながりの構築を図る。

職員の姿勢

○利用者に対してピアの姿勢を持ち続け、共に地域で自立していくことを目指す。
○社会モデルの重要性を共有する仲間を増やし、障害観の変革に向けて活動する。

障害者の実態

・重度障害者の自立生活実践者が少なく、社会に向けた声が届きにくい。
・「自分の障害では自立なんかできるわけがない」や、「障害を克服して『障害者』から抜け出したい」と錯覚している。
・休日に孤独を感じる障害者が多い。
・障害当事者同士のネットワークが希薄である。

地域の実態

・男性ヘルパーが少ない。
・完全なる医学モデル。
・戦後の「障害者はかわいそう」という感覚を脱却したかしないかの障害観。
・特に高齢者は医学モデル志向が強い。
・障害者が活動・参加できるグループなどの受け皿が少ない。

地域の特色

○「ぽちぽち行こうや」と言えるような雰囲気。　○人間関係が深く、ゆったりした時間が流れている。

担当（たんとう）割り当て表（わりあてひょう）

☆美濃部裕道（代表）

ピア・カウンセリング、障害観変革活動、ピア活動、当事者・団体ネットワーク、余暇活動、地域との企画調整、教育相談、権利擁護、自立生活プログラム、進路

☆市川正太（副代表）

住宅バリアフリー、社会モデルの普及、医療関係者との連携、在宅医療、事業所解放、パソコン教室、ヘルパー育成、広報、クラブ活動

☆頼尊恒信（事務局長）

事務全般、障害学生との連携、交通バリアフリー、福祉従事者との連携、資源開拓、全国団体との連携、家族との連携、社会モデルの探求（障害学）、外出

会員（かいいん）を募集（ぼしゅう）しています

NPO法人CILだんないでは、理念に賛同していただける方のご支援をお待ちしています。ぜひ、正会員・賛助会員への入会をお願いします。

・入会金 1,000円

・正会員年会費 5,000円

・賛助会員年会費 10,000円（１口）

・ご寄付も重ねてお願いします!

連絡先（れんらくさき）

NPO法人CILだんない
代表　美濃部裕道、副代表　市川正太　〒529-0423
事務局長　頼尊恒信、　理事　横山卓馬　滋賀県長浜市木之本町千田681－4
URL：http://www.ab.auone-net.jp/~dannai/ E-mail： dannai@ae.auone-net.jp
郵便振替口座番号：00940-2-209115　加入者名：NPO法人CILだんない